

# 平成21年度学校関係者評価 全方位的な点検・評価 項目の分析と考察

※肯定的評価（Aとても思う+B思う）と否定的評価（Cあまり思わない+D思わない）及び、E分からないに分けてその割合を比較する。

## I. 重点目標への取り組み

1、地域の活動や行事に積極的に参加する。 2、地域、家庭への情報発信、受信を充実させる。 3、教科「日本語」の授業内容を充実させる。			
重点目標への取り組み	分析結果	評価・課題及び改善方策	
・前年度の学校評価等を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している。	肯定的評価は89%である。	高いプラス結果である。 地域は86%が肯定的な評価であったが、保護者は60%の評価で十分とはいえない。 課題は、保護者への広報活動を進めることである。 <改善策> 年度当初より、より広報活動を行う。また、具体的な取り組みを全校体制で目に見える形で行う。	1
・教職員は重点目標に沿った取り組みを進めている。。	肯定的評価は83%である。		2
・保護者・地域の方々へ十分に重点目標を説明している。	肯定的評価は94%である。		3

## II. 地域とともに子どもを育てる教育

広報活動・情報提供			おおむね良好な結果である。 6. 地域人材等の活用に関しては、さらに工夫をする余地がある。 情報提供に関しては、保護者・地域のアンケート結果から、保護者に対しては配布物（プリント）で、地域に対してはホームページで発信していることによりよい評価を得ている。 学校協議会の活動に関しては、保護者への周知及び地域関係者の評価結果は十分とはいえない。 ＜改善策＞ 情報の提供先に合った方法を工夫・改善し、学校への理解・協力体制の深化を図る。 学校協議会の活動については、避難所運営訓練の定期的な開催及び生徒・保護者の活動への参加等を行い、一層の活性化を図る。 ふれあい挨拶デーの取り組みは、小学校との連携のもと継続実施し、地域とともに子どもたちを見守り、育てていく体制を深める。 地域との連携を深めるため、地域活動やボランティア活動への参加を促すシステムづくりをさらに進める。
	・保護者や地域の方に対して、情報を積極的に発信している。	肯定的評価は８９％である。	
保護者・地域連携			
	・地域の人材や施設等の活用が進められている。	肯定的評価は７２％である。	
	・保護者の相談等に丁寧に対応している。	肯定的評価が１００％である。	
学校協議会			
	・学校協議会の活動が活発に行われている。	肯定的評価は８４％である。	
ＰＴＡ活動			
	・ＰＴＡ活動が活発に行われている。	肯定的評価は８９％である。	
家庭教育支援			
	・家庭教育の充実に向け、必要な情報を提供している。	肯定的評価は７８％である。	

## III. 未来を担う子どもを育てる教育

教育課程				
【教育課程の編成・管理】			高いプラス結果である。 各項目とも肯定的評価が８０％以上の高い評価である 各教科では学習指導要領の趣旨に基づいた年間授業計画を作成し、授業時間の確保については、最大限の努力をし、授業を実施している。 ＜改善策＞ より授業方法の改善に努める。 行事の精選や準備に関わる時数の工夫を行う。 日課表の改善を検討する。	
	・学習指導要領の趣旨を活かし教育課程を編成している。	肯定的評価は８３％である。		10
	・教育課程の管理が適切に行われている。	肯定的評価は１００％である。		11
	【授業時数等】			
	・生徒の実態に即した生活時程になっている。	肯定的評価は８９％である。		12
	・各教科等の年間授業時数の確保に努めている。	肯定的評価は８３％である。		13
教育目標等				
【教育目標の達成状況】	・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点は生徒の実態、保護者等の願いを活かしている。	肯定的評価は８９％である。	14	
	・教育目標を達成するための基本方針や指導の重点を共通理解し、保護者・地域への周知がなされている。	肯定的評価は９４％である。	15	

学習指導			
	【指導計画】		
	・指導目標・指導内容を明確にして指導計画を作成している。	肯定的評価は91%である。	16
	・年間指導計画等に基づいて計画的な指導がなされている。	肯定的評価は95%である。	17
	【指導の工夫】		
	・少人数教育の成果がみられている。	肯定的評価は67%である。	18
	・個に応じた指導が適切に行われている。	肯定的評価は78%である。	19
	・体験的・問題解決的な学習が進められている。	肯定的評価は50%である。	20
	・基礎的・基本的な内容の定着が図られている。	肯定的評価は72%である。	21
	【評価】		
	・指導と評価の一体化がなされている。	肯定的評価は84%である。	22
	・評価規準を明確にして評価している。	肯定的評価は83%である。	23
	【教材・教具・施設の活用】		
	・教材教具が整備され、積極的に活用されている。	肯定的評価は84%である。	24
	・学校図書館は有効に活用されている。	肯定的評価は89%である。	25
	・施設・設備は有効に活用されている。	肯定的評価は89%である。	26
	【教科・日本語】		
	・教科「日本語」のねらいについて、教職員の共通理解がなされている。	肯定的評価は23%である。	27
	・教科「日本語」の充実に取り組んでいる。	肯定的評価は45%である。	28
生活指導			
	・生活指導について組織的な取り組みがなされている。	肯定的評価は78%である。	29
	・学校のきまりや基本的な生活のルールが教職員に共通理解されている。	肯定的評価は61%である。	30
	・生徒の規範意識や社会の一員としての自覚を高めている。	肯定的評価は61%である。	31
	・保護者等からの相談に誠実に対応している。	肯定的評価は94%である。	32
	・スクールカウンセラーの活用や相談室等との連携が図られている。	肯定的評価は73%である。	33
道徳			
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は61%である。	34
	・各教科等との関連を図った指導がなされている。	肯定的評価は39%である。	35
	・道徳的心情、判断力、実践力が育っている。	肯定的評価は34%である。	36
特別活動			
	・年間計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は73%である。	37
	・年間計画に基づいた自主的な運営がなされている。	肯定的評価は73%である。	38
	・生徒の自主的・実践的な態度が育成されている。	肯定的評価は50%である。	39
総合的な学習の時間			
	・年間指導計画に基づき、生徒の実態に即した指導がなされている。	肯定的評価は73%である。	40
	・体験等を通して生徒の問題解決能力が育っている。	肯定的評価は44%である。	41

おおむね良好な結果であるが、体験的・問題解決的の学習、教科日本語の結果が良くない。  
また、通知表に対する保護者の否定的意見が多いこと、生徒の評価との差がみられることがあげられる。  
＜改善策＞  
体験的・問題解決的な学習をより意図的に取り入れるよう工夫する。  
教科日本語に関しては、研修等を計画的に実施し、共通理解・充実に全校体制で取り組む。  
評価評定について保護者会や学年だより等でより詳しく説明する。  
教科指導の充実を重点目標として取り組む。

おおむね良好な結果である。  
保護者アンケート2（2）では否定的意見が38%となっている。「分からない」も含めると55%となっている。  
＜改善策＞  
年度当初に、生活指導マニュアルに基づいて、きまりや対応の仕方を確認し、それ以外の不明な点があったときは、定期的に討議の機会を設けて協議する。これらことにより、情報の共有化・共通理解を図り、指導体制を強化する。  
問題行動を随時生徒にも知らせ、自分自身について考えさせ、気づかせる指導を推進する。  
道徳や学級活動を含め全ての領域で、規範意識の向上を図る。

道徳及び問題解決能力の育成の評価が低い。  
＜改善策＞  
道徳の授業だけではなく、各教科の授業の中や、学校行事等を通じ日々の呼びかけにより道徳的心情を高める。  
委員会活動においては、より自主的に考え、企画立案・実践できるよう指導する。  
実行委員会・学級会・班会議などを通して、自主的に考える時間を多く設定し、問題解決能力の向上を図る。  
校外学習等の体験学習を通して、問題解決能力や意思決定能力、情報活用能力の向上を培わせる。

学校行事			
	・無理なく計画的に学校行事が実施されている。	肯定的評価は61%である。	42
	・学校行事の工夫・改善が進められている。	肯定的評価は55%である。	43
健康・体力			
	・体力の向上に取り組んでいる。	肯定的評価は73%である。	44
	・食育の推進に計画的に取り組んでいる。	肯定的評価は72%である。	45
	・健康教育について保護者の理解と協力が得られている。	肯定的評価は68%である。	46
特色ある教育			
	・生徒や地域、学校の実態に応じた取り組みとなっている。	肯定的評価は78%である。	47
	・学校間連携（幼・小・中・高）を積極的に行っている。	肯定的評価は72%である。	48
	・学校図書館の活用や種々の場面で国語力の向上を図っている。	肯定的評価は88%である。	49
	・学校エコライフ活動の取り組みを図っている。	肯定的評価は72%である。	50
キャリア教育・進路指導			
	・職場体験が効果的に実施されている。	肯定的評価は72%である。	51
	・キャリア教育・進路指導について組織的な取り組みがされている。	肯定的評価は61%である。	52
	・生徒、保護者に十分に情報を提供している。	肯定的評価は94%である。	53
特別支援教育			
	・校内体制が整備され校内委員会は機能している。	肯定的評価は71%である。	54
	・教育相談室や関係機関との連携が行われている。	肯定的評価は77%である。	55
部活動			
	・部活動は活発に行われている。	肯定的評価は94%である。	56
	・部活動の実施体制は適切である。	肯定的評価は78%である。	57

おおむね良好な結果である。  
 学校行事の工夫・改善、キャリア教育の組織的な取り組みに関しては高い評価とはいえない。  
 <改善策>  
 学校行事の精選・改善を行う。  
 キャリア教育に関しては、保護者への啓発活動を組織的に進める。  
 重点回台として、部活動の充実を引き続き行う。

#### IV. 信頼と誇りのもてる学校づくり

学校運営・学校経営			
	・校長の経営方針は明確に示されている。	肯定的評価は89%である。	58
	・校長のリーダーシップは発揮されている。	肯定的評価は94%である。	59
	・教職員一人一人が主体的、組織的に教育活動を行っている。	肯定的評価は67%である。	60
	・校務分掌は適切に分担され、各分掌の取組内容等が明確で適切に機能している。	肯定的評価は67%である。	61
	・教職員の情報共有が適切になされている。	肯定的評価は67%である。	62
	・校務の情報化が進められている。	肯定的評価は77%である。	63
学校評価			
	・学校評価は適切に実施されている。	肯定的評価は67%である。	64
教職員			
	・問題意識や悩みを気軽に話し合える職場となっている。	肯定的評価は78%である。	65
	・教職員の服務規律への自覚が高く、かつ守られている。	肯定的評価は78%である。	66
研究・研修			
	・校内研究会・研修会が充実し、日々の実践に役立っている。	肯定的評価は61%である。	67

おおむね良好な結果である。  
 校長のリーダーシップは十分に発揮されている。  
 60, 61, 62の項目に関しては、昨年度に比べ評価結果が下がっている。  
 <改善策>  
 分掌組織内の仕事分担の改編や特別委員会の活動の活性化を図る。  
 分掌等の会議及び学年会等により、情報提供を各教職員が積極的に行う。  
 定期的に学年会を設定し、情報の共有を深化する。

昨年度に比べ、評価結果が下がっている。  
 <改善策>  
 本点検・評価項目の検討をする。

おおむね良好な結果である。  
 昨年度の比べ、評価結果が下がっている。  
 <改善策>  
 服務規律の厳正は100%であるべきであり、日常から教職員の意識の向上・徹底を行う。

教職員の評価が61%と十分とはいえない。  
 <改善策>  
 アンケートをとり、研修計画を見直す。

保健管理			
	・生徒の実態を踏まえた計画的・組織的な健康指導が行われている。	肯定的評価は８９％である。	高いプラス評価である。 ＜改善策＞ 学校全体の生徒の健康状態の把握のため、学校保健委員会の中で学校医とより連携を深めていくよう努める。
	・日常の健康観察や健康診断等が適切に行われている。	肯定的評価は９４％である。	
安全管理			
	・事故・災害等に迅速に対応できる体制が整備されている。	肯定的評価は７８％である。	良好な結果である。 保護者アンケートの１０（２）では３３％が否定的意見である。 ＜改善策＞ 避難訓練や安全指導の様子を学年だよりやHPで紹介する。
	・避難訓練・防災訓練等が適切に行われている。	肯定的評価は９４％である	地域と連携した訓練の実施と内容の工夫をするとともにHP等保護者への広報活動もさらに充実させる。
出納・経理			
	・予算の執行が適切に行われ、点検がなされている。	肯定的評価は７７％である。	本校項目は１００％であるべきであり、日常から教職員の意識の向上を徹底的に行う。
	・私費会計の徴収・会計処理が適正に行われている。	肯定的評価は６５％である。	
文書・情報管理			
	・個人情報の管理システムが機能し適切に管理されている。	肯定的評価は８３％である。	本校項目は１００％であるべきであり、日常から教職員の意識の向上を徹底的に行う。
	・パソコンによる校務は適切に行われている。	肯定的評価は７８％である。	

## V. 教育環境の整備

施設・設備			
	・学校の教育環境は整備されている。	肯定的評価は８４％である。	良好な結果である。 ＜改善策＞
	・日常的な施設、設備の点検や管理は適切に行われている。	肯定的評価は８４％である。	引き続き迅速な対応を行う。

## VI. 数値目標の達成状況

数値目標	分析と課題
授業内容はよく理解できると思う生徒の割合を７５％以上にする	生徒は「授業の内容はよく理解できる」という項目に対して、７０％（A15%, B55%）と評価をしている。昨年度より下がり、一昨年度とほぼ同様である。目標は達成できたとはいえない。 A:「とてそう思う」とい生徒の割合は３年間ほとんど変化がない。２年生において、A:12%、B:49%と低い評価である。 保護者への「本校では、子どもにとってわかりやすい授業をしている」の評価においては、昨年度５８％、今年度６０％の充足度であり、満足できる結果とはいえない。 ＜改善策＞引き続き校内研修・授業研究等を通して、授業改善及び授業規律の確立に努める。また、各教科ごとや学年ごとのアンケート等を実施することにより、より細かな実態把握と分析をする。
教育相談活動を多くの場面で充実させ、生徒の充足度を６０％以上とする	「保護者等からの相談に誠実に対応している。」の問いに教師側は１００％が肯定的意見である。 保護者の意見では「子どものことについて、本校の職員は相談しやすい。」の肯定的意見が６２％、生徒の意見では「先生は、よくわたしの話を聞いてくれる」の肯定的意見が５０％となっている。 保護者・生徒の評価結果は微増であり、目標は達成できたとはいえない。 ＜改善策＞ 教育相談活動の内容・方法を再検討する。相談活動を活性化するための研修を実施する。
心の教育を積極的に推進するために、生徒が自主的に企画運営に当たる活動を重視し、学校行事における生徒の充足度を６５％以上にする。	「先生は、生徒の意欲を大事にした指導をしてくれる。」の項目では５６％の肯定的意見となっている。昨年の５５％からの微増にとどまり、目標は達成できたとはいえない。（一昨年度は４８％である。） ＜改善策＞ 行事の精選・縮減を並行して進める中で、学校行事では実行委員会指導を通し、生徒からのアイデアを募ったり、実行委員に運営を考えさせる指導を行うこと、生徒会行事では、生徒会役員に企画を立てさせる指導を行い、生徒の自主的な活動を促すことを進める。